

南方遺跡に花ひらく木製品の文化

奈良文化財研究所 研究員 浦蓉子

岡山市の旭川西岸に位置する南方遺跡は、弥生時代中期を中心とする拠点的な集落である。集落の傍の旧川路からは集落から廃棄された、当時の生活を示す多くの木製品が出土した。木製品は、耕作土木具、農具、祭祀具、日常雑具、武器・武具、建築部材など多岐にわたる。また、これらの木製品からは南方遺跡における木工文化の豊かさを見ることができ、まさに弥生時代中期における木工技術を総覧することができる遺跡である。遺跡を代表する多種の食事具・容器類には、漆塗で仕上げられたものがあり、特別な用途として用いられたと推測できる。また、ジョッキ形木製品や脚付桶等からは北陸地域や山陰、九州の集落との交流をうかがい知ることができる。加えて、脚付き容器やコップ形等、近畿地方や東海とも通有な容器もみられる。南方遺跡からは木材を削り抜いて容器を作る、削物（くりもの）技術で作られた容器だけでなく、板を組み合わせて作る箱などの指物（さしもの）技術で作られた容器も出土している。新しい技術である指物技術の萌芽を見て取ることができる。

《本日の内容》

はじめに

1. 南方遺跡における木製品の様相
2. 削物技術の高さ —ジョッキ形木製品・彩文高杯・縦杓子
3. 削物から指物へ —指物技術の萌芽

おわりに

参考文献

扇崎由編 2005『南方（済生会）遺跡 —木製品編—』岡山市教育委員会

扇崎由 2012「22章 中国（1）-岡山県・広島県・山口県-」『木の考古学』海青社 pp.286-290

岡山市埋蔵文化財センター編 2022『南方遺跡 ～花ひらく弥生文化～』岡山市教育委員会

岡山市埋蔵文化財センター編 2016『南方遺跡〈第1分冊〉』岡山市教育委員会

『岡山市埋蔵文化財調査の概要 1995年（平成6年度）』岡山市教育委員会

『岡山市埋蔵文化財調査の概要 1995年（平成7年度）』岡山市教育委員会

山陰考古学研究集会編 2012『山陰の弥生時代木製品 第40回山陰考古学研究集会資料集』第40回山陰考古学研究集会資料集事務局

田崎博之 2018「漆工芸の歴史—西日本地域の弥生時代漆器を中心として」『伊予の木工芸』公益財団法人愛媛県埋蔵文化財センター

鳥取県埋蔵文化財センター編 2008『青谷上寺地遺跡フォーラム 弥生の至宝～花卉高杯とその背景～』鳥取県埋蔵文化財センター

樋上昇 2019「『北陸型』木製品の展開と地域間交流～工具の問題も含めて～」『北陸の弥生世界わざとこころ』大阪府立弥生文化博物館

兵庫県立考古博物館編 2011『木のうつわ 六千年の技』兵庫県立考古博物館

※新聞記事は1994～1995年発行の『月間文化財発掘出土情報』からそれぞれ引用いたしました。

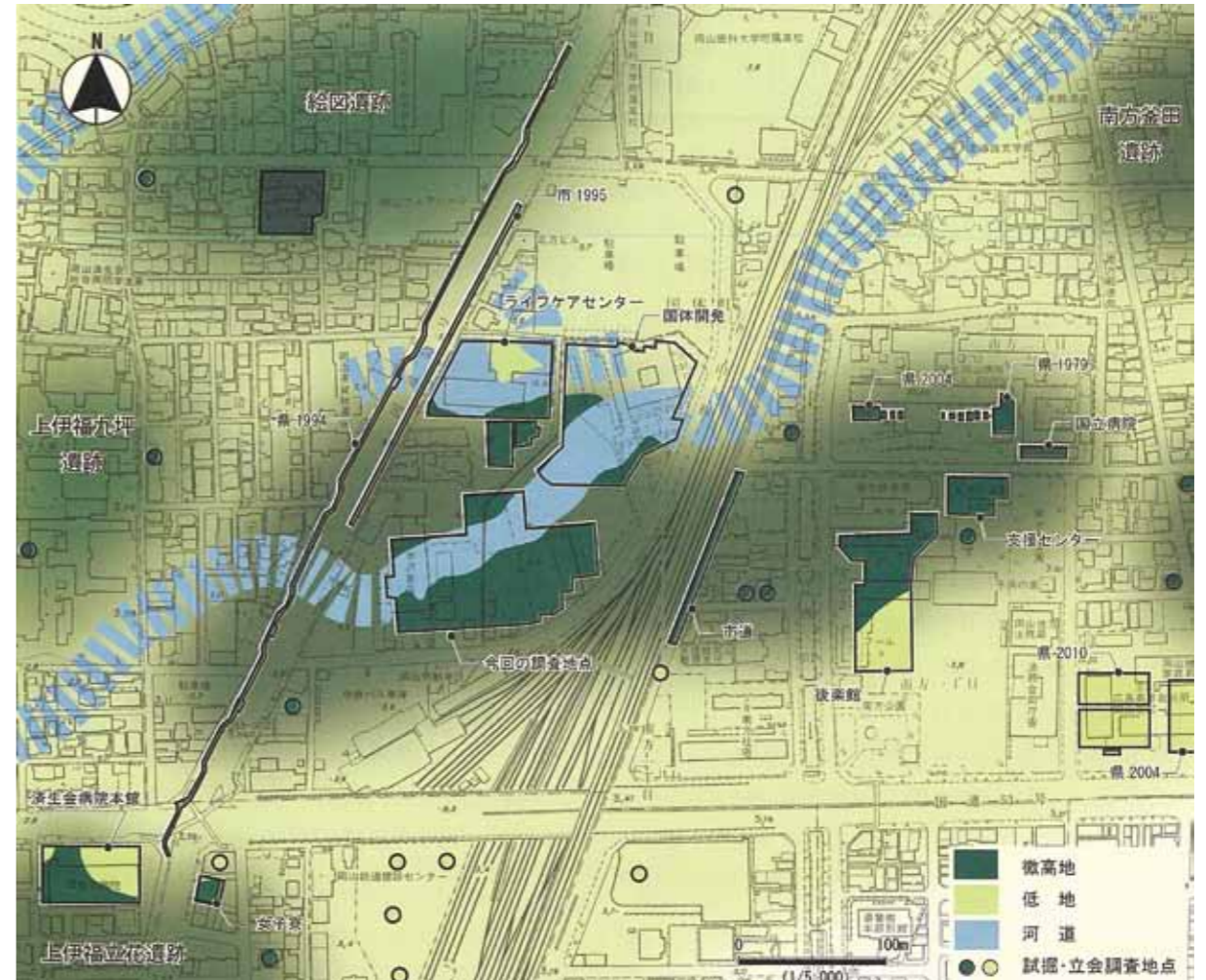


図1 南方遺跡周辺と微地形の復元

用語解説集

針葉樹 裸子植物の針葉樹類（球果類）に属する植物。一般に高木で、葉は針状をなす。スギ、ヒノキ、マツなど

広葉樹 被子植物の双子葉類に属する木本植物。一般に葉面の広い葉をもつのでこの名がある。熱帯から温帯にかけて広く分布し、クスノキ、ツバキ、シイなどの常緑広葉樹、カエデ、クリ、ブナなどの落葉広葉樹などに分けられる。

木口面 木の横断面。

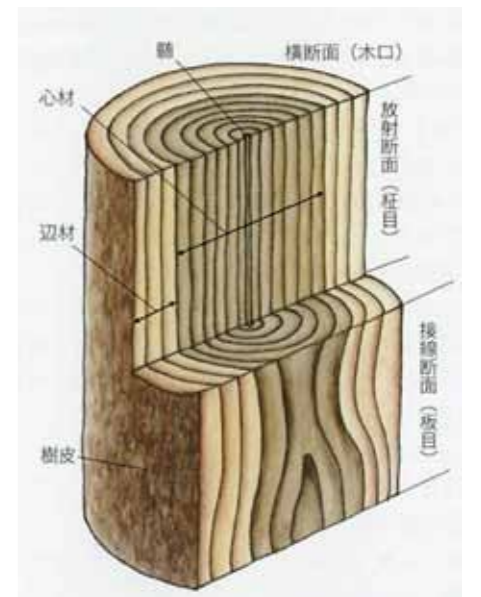
柾目面 木目が平行になる、放射方向の断面。年輪に垂直。放射断面

板目面 板の木目（もくめ）が平行に通らないで、山形や不規則な波形にまがっているもの。年輪に平行。接線断面。

木取り 木材をどのように加工しているか。木材からどのように部材を切り出しているか。例) 板目材、柾目材、縦木取り、横木取り

心材 木材の中心部分。すべて死細胞。

辺材 木材の外側付近。一部の細胞が生存。水分や養分の輸送、デンプン貯蔵。



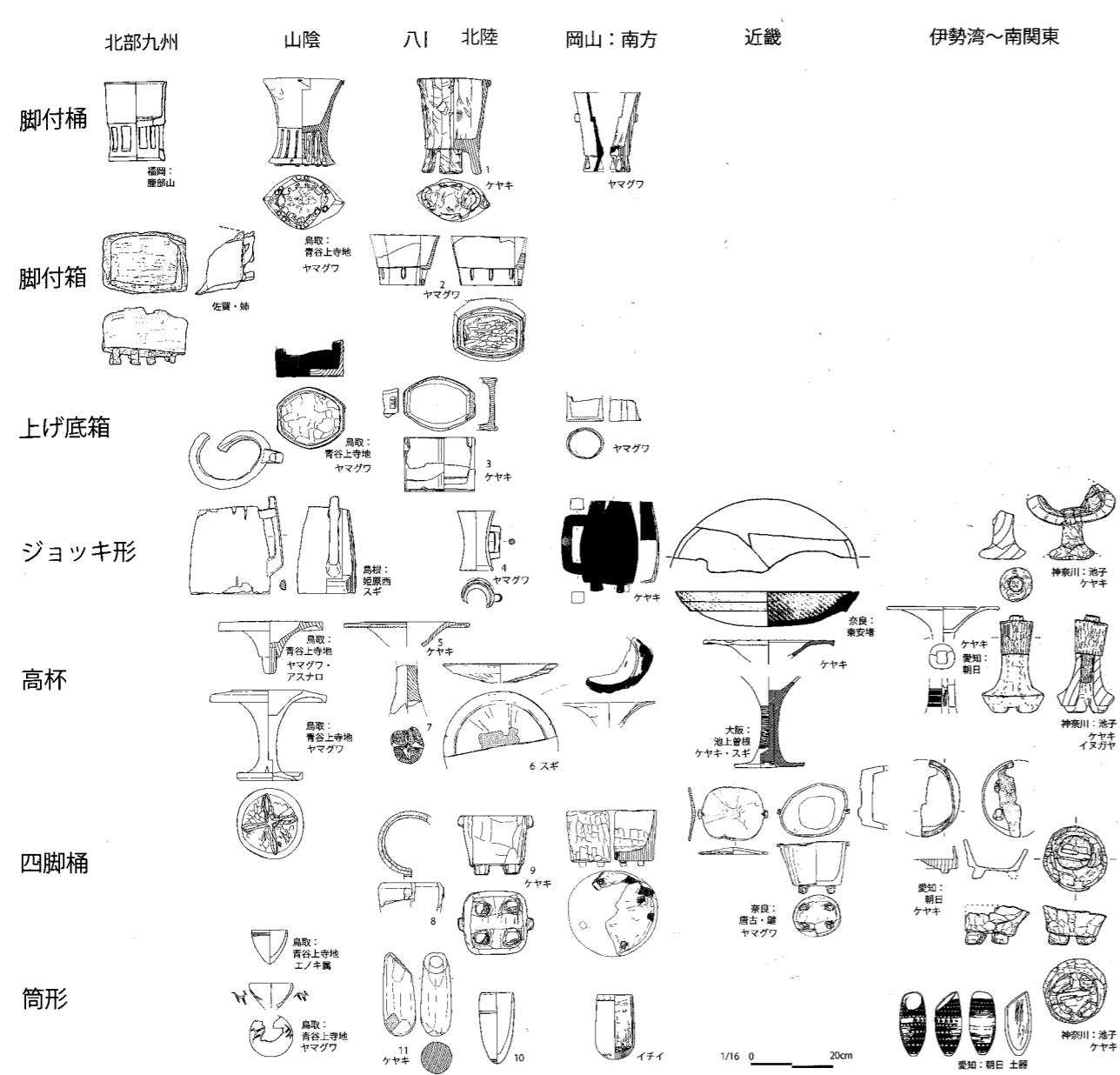


図2 容器の地域差 1:16

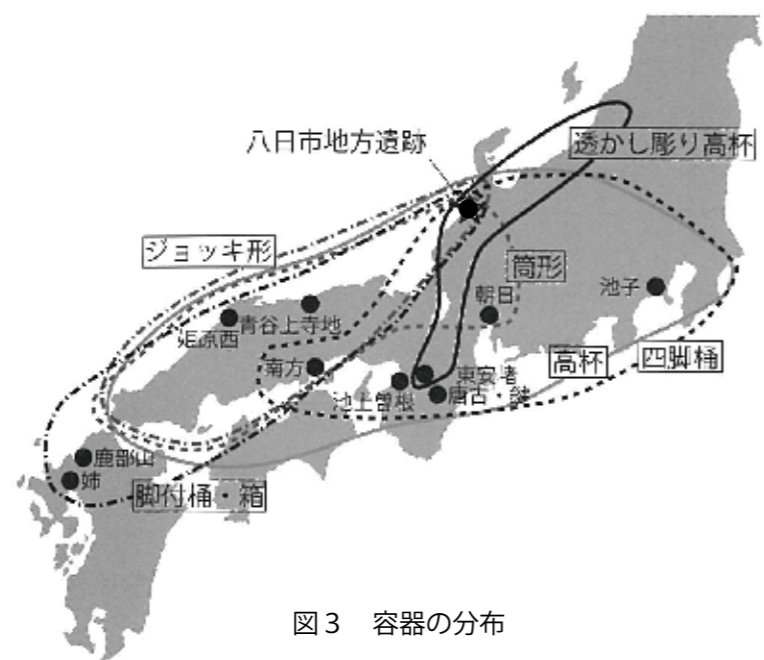


図3 容器の分布

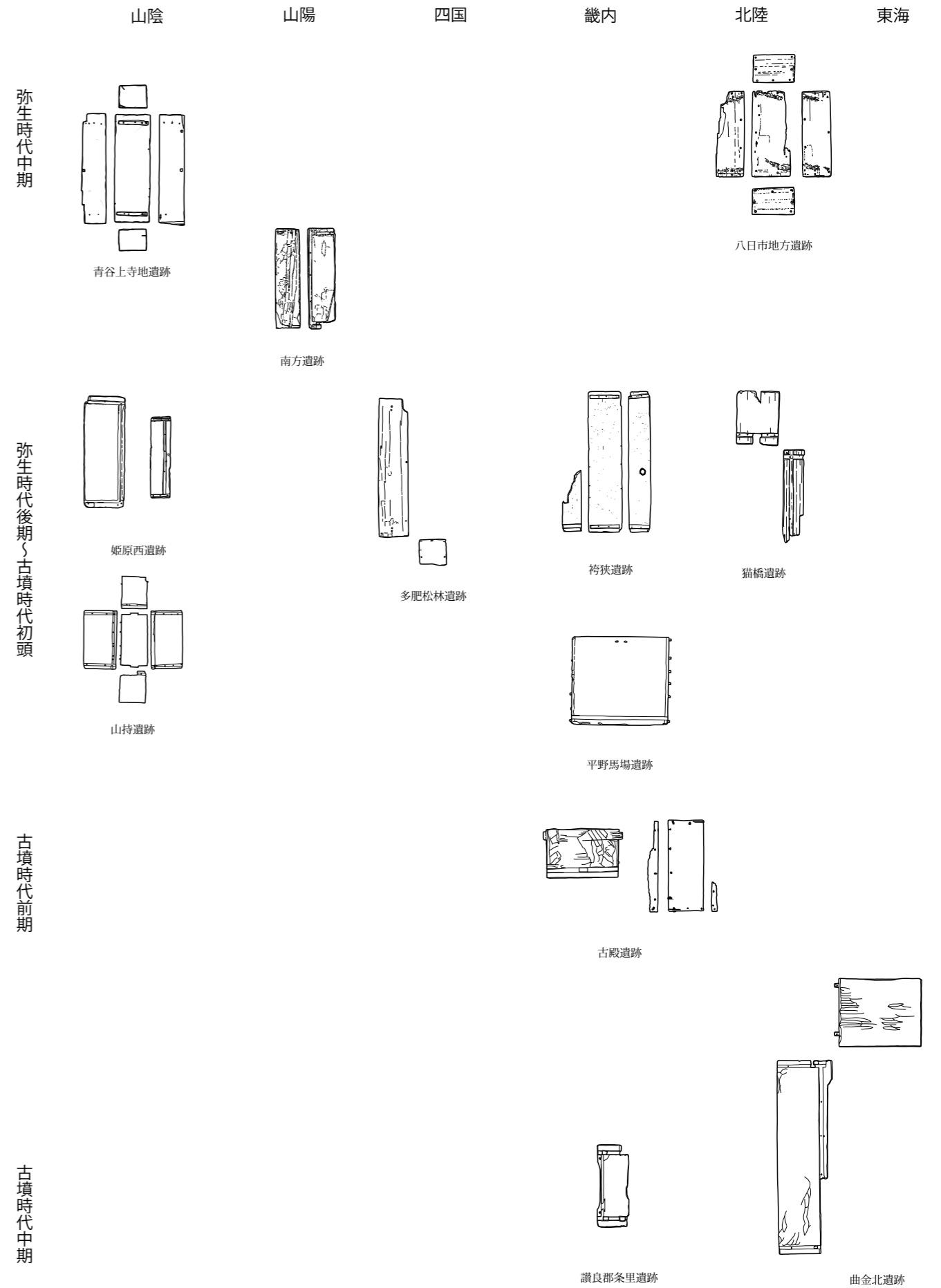
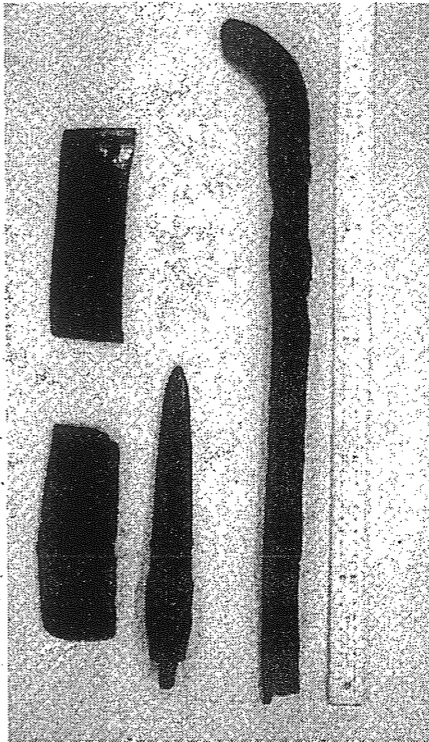


図4 「箱」における結合技術の様相 1:20

弥生中期の岡山・南方遺跡

一九九三年から発掘されてきた弥生時代中期（紀元前二世紀から紀元前）の南方遺跡。岡山県岡山市国体町に位置する。弥生時代の遺跡として、その全容が明らかになった。

高度な技術表わす 銅剣にそっくりの剣も



南方遺跡から出土した木製の木の柄（右）、銅（中央）、よろいの一部（左）＝岡山市国体町で発掘された。弥生時代中期の遺跡として、その全容が明らかになった。

木製武器など数千点出土

岡山県下最古の鉄のみ

弥生時代中期（約二千年前）の木製武器など数千点出土。鉄製の武器も出土した。弥生時代の遺跡として、その全容が明らかになった。



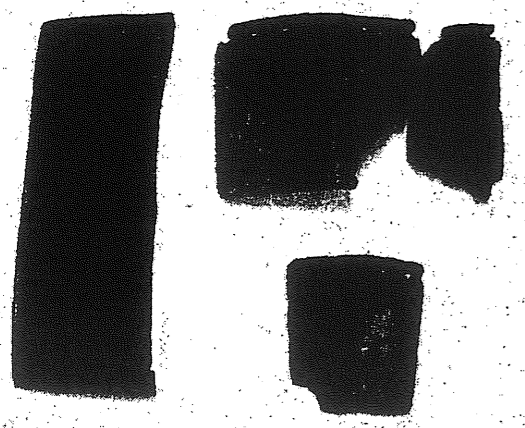
木製品加工に使用

弥生時代中期の遺跡として、その全容が明らかになった。木製品の加工に使用された道具や技術が明らかになった。

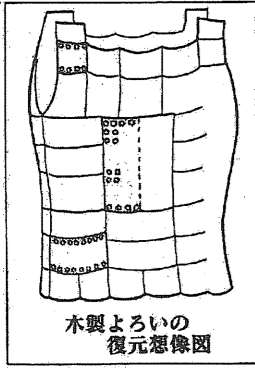
国内最古の木製よろい

従来ない革とじ型

弥生中期 一木造りに比べ機能的



見つけた日本最古の木製よろいの一部。板には、ひもを通すための穴が開いている



岡山市教育委員会が調査している。弥生時代中期の遺跡として、その全容が明らかになった。

岡山・南方遺跡で発見

日常生活に大きな比重。弥生時代中期の遺跡として、その全容が明らかになった。日常生活に大きな比重を占めた。

弥生中期の建材も大量に

壁板や梁など100点以上加工の跡くっきり

弥生時代中期の遺跡として、その全容が明らかになった。壁板や梁など100点以上の加工の跡がくっきりと残っていた。

弥生時代中期の遺跡として、その全容が明らかになった。弥生時代の遺跡として、その全容が明らかになった。

弥生の数字?

岡山 日本最古か剣形木製品



弥生時代中期の遺跡、岡山市国体町の南方遺跡で、日本最古か剣形木製品が発見された。



まとめて出土した弥生時代中期の建物建材。材＝岡山市国体町、南方遺跡

図5 南方遺跡の木製品や加工に関連する報道 (1994年～1995年にかけて)

挿図出典 図1:岡山市埋蔵文化財センター編2016より転載、図2:樋上2019より転載、図3:樋上2019を改変して転載、図4:筆者作成、図5:『月間文化財発掘出土情報』(1994～1995)より転載、参考図版:鳥取県埋蔵文化財センター編2008より転載

矢じり刺さった盾発見

弥生中期、実戦に使う?

弥生時代中期の遺跡として、その全容が明らかになった。矢じり刺さった盾が発見された。弥生時代の遺跡として、その全容が明らかになった。

弥生時代の木製容器

国内の遺跡では、縄文時代から木製容器の製作が確認されていますが、弥生時代になると、大型化や指物などそれまでにない技法の出現がみられます。これは弥生時代の特徴の一つである「鉄器」が広がることにより、石器で製作していた縄文時代に比べて製作技術が著しく向上したものと考えられます。

また、近年では青谷上寺地遺跡をはじめとした

低湿地遺跡の発掘件数の増加や、調査研究の進展によって、木製容器の情報がかなり増加しています。中でも山陰と北陸を中心とした日本海沿岸地域には、桶や高杯などに形態の類似性が強く認められます。また、鉄器や玉などもこの地域でかなり流通していることから、活発な交流活動を行っていたことが推測されます。

石川県金沢市西念・南新保遺跡 桶(上・右)
(弥生時代後期)

石川県小松市八日市地方遺跡 合子
(弥生時代中期)

石川県白江梯川遺跡
白江念仏堂遺跡

愛知県清洲市朝日遺跡 高杯杯部
(弥生時代中期)

神奈川県逗子市池子遺跡群
一木式高杯(上)と組合せ式高杯(下)
(弥生時代中期)

三重県津市六大A遺跡 曲物底部
(弥生時代後期～古墳時代)

静岡県静岡市川合遺跡
組合せ式高杯杯部(上)と脚部(下)
(弥生時代後期)

奈良県田原本町唐古・鍵遺跡 蓋付高杯(左)と蓋付四脚容器(右)
(弥生時代中期)

大阪府東大阪市池島・福万寺遺跡 高杯
(弥生時代前期)

大阪府東大阪市鬼虎川遺跡 高杯杯部
(弥生時代中期)

三重県津市六大A遺跡 曲物底部
(弥生時代後期～古墳時代)

兵庫県下加茂遺跡

兵庫県豊岡市袴狭遺跡 高杯脚部
(弥生時代後期)

島根県出雲市海上遺跡 合子
(弥生時代中期～後期)

島根県出雲市姫原西遺跡
ジョッキ形容器(弥生時代後期)

島根県西川津遺跡
麦木畷田遺跡

島根県五反配遺跡

青谷上寺地遺跡

福岡県筑前町惣利遺跡 杯形容器
(弥生～古墳時代)

佐賀県小城市生立ヶ里遺跡 漆塗り槽
(弥生時代中期)

岡山県岡山市南方(済生会)遺跡
彩文高杯(上)とジョッキ形容器(下)
(弥生時代中期)